

忍城下ではつけよいのこった〜江戸時代の相撲〜

時は暮末に差しかかるころの弘化5年(1848)2月、行田本町で相撲興行が開催されました。江戸時代、記録に残っている3つの行田場所の中では最大規模の力士152人が集まるものであったことが、伝来する番付資料から判明します。

さぞ行田町は大変なにぎわいだったと思われませんが、興行の実現に至るまでの道のりは、険しいものでした。現代でいうところの日本相撲協会の理事に当たる相撲年寄に直接掛け合い、興行の手はずを整える必要があったのです。行田町年寄の「御用日記」によると、彼らとコネクションをもつ勸進元(主催者)である行田町の八百屋唯治郎と丸屋十郎右衛門、そして

荒汐斧治郎がその役目を果たすことで、興行の招致計画が進められたことが分かれます。

また、当時、相撲や祭礼の開催には江戸幕府の規制がかかっていました。興行実現には、行田町の勸進元の要望を幕府に通すため忍藩の江戸留守居役が交渉に

尽力しています。興行の条件として、素人の力士を混ぜず、晴天5日間の期間を守り、忍藩の監督下で実施することをうたい、初めて許可を得ることができました。

興行自体は力士の取り組みの他、現代の花相撲のように対戦形式で相撲の禁止手や作法などを紹介する初切も行われていたようで、行田町や領内村々から集まった人々は、城下での相撲を堪能したことでしょう。弘化3年(1846)に行田町を襲った伝兵衛火事の直後に開催されたこの大規模な相撲興行は、城下町復興の推進力になっていったとみられます。

(郷土博物館 澤村怜薫)



弘化5年の行田本町場所の相撲番付 (個人蔵 当館保管)

はじめまして



平成31年4月生まれのお子さんを募集します

- 2月3日(月)〜28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。
- 応募者多数の場合は、3月3日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



平成31年2月生まれのおともだち



柳原 愛ちゃん(棚田町)
平成31年2月20日生まれ
父・淳さん 母・真奈美さん
「皆に愛される子になってね」



阿部 鈴ちゃん(行田)
平成31年2月4日生まれ
父・衛さん 母・イーヴィーさん
「心の優しい子になあれ」



伊波 琉之介ちゃん(藤原町)
平成31年2月24日生まれ
父・拓也さん 母・奈津子さん
「産まれてきてくれてありがとう」



鎌田 真緒ちゃん(持田)
平成31年2月4日生まれ
父・淳さん 母・菜摘さん
「(元気に)のびのびと育ってね!」



工藤 礼央ちゃん(埼玉)
平成31年2月9日生まれ
父・真哉さん 母・恵子さん
「癒しの三男、ありがとう!」



塚越 紫音ちゃん(埼玉)
平成31年2月2日生まれ
父・直希さん 母・美紅さん
「我が家の甘えん坊♡
(元気に育ってね!)」

今月の表紙

1月12日、産業文化会館ホールで「令和2年行田市新成人を祝う会」が行われました。

今年、本市で成人を迎えたのは792人。うち583人が鮮やかな振り袖や真新しいスーツなどに身を包み式典に臨みました。新成人らは旧友との再会を懐かしむ一方、大人への決意を胸に新たな一歩を踏み出していました。

■ 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。

■ 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。

■ 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



環境にやさしい
植物油インキ

市報ぎょうだは
再生紙を
使用しています